

日本が誇る宝物

東京都江東区立川南小学校 五年 長谷 美波

私の一日は、毎朝果物で始まる。果物はおいしただけでなく、ビタミンや果糖、ブドウ糖や食物せんいなどの栄養が豊富に含まれ、空腹の胃にもやさしいので、朝食はまず果物から食べ始める。甘くても太りにくいという利点もある。まさにスーパーフードだ。

広大な土地で機械さいばいを行うアメリカなどに比べ、日本では農家の方々が大変な作業を通して果物を作っている。先月、群馬県の農家に宿泊し、りんごがりをさせてもらった際、いろいろな枝を切るせん定、受粉、つきすぎた花や実を除く摘花や摘果、葉つみ、玉まわしなど、りんご一つ一つをおいしく実らせるための様々な作業工程について学んだ。殺虫ざいや農薬の使用をひかえ、安心・安全なさいばいのために手間をかけ、心をこめてがんばっている農家の方々は私たちの誇りだ。

これらの果物は日本国内だけでなく、世界各地に輸出され、感動を届けている。冬休みに訪れた台湾のデパ地下では、青森や和歌山などの産地が大きく表示された日本のりんごや柿、みかんなどがブランド品の宝石のように堂々と並べられていた。値段も高かったけれど、多くのお客さんが手に取る様子から、日本の果物が高い評価を得ている事実を知り、うれしい気持ちになった。

普段スーパーで目にする果物は形が整い、きず一つなくツヤツヤと光っている。しかし、りんご農園や親せきが経営する有機さいばいの八百屋の果物は形がふぞろいで少々きず付きでも新せんで美味だ。だから、粒ぞろいでない果物も私達消費者が受け入れれば、廃棄などでむだにならず、農家のみなさんの熱意がより活かされるのではないだろうか。

このように、日本の果物づくり手の人達が工夫と努力を重ねた大切な授かり物だ。私はこれからは感謝の気持ちと共に、日本ならではのせん細でおいしい果物を満きつしながら健康な体を造っていきたい。